

- 日野自動車、「日野レンジャー」のエンジンに不具合があるとしてリコール 10年6月21日～15年12月25日に生産した7万9190台
エンジンのピストン鑄型の形状が不適切な為、鑄造時にピストンスカートの下端部に空隙(ブローホール)が発生しているものがある。その為、当該部を起点にスカート部が損傷することで異常な打音が発生し、そのまま使用を続けると、エンジンが停止する恐れがある。
- スズキ、「スイフト」のエアバッグに不具合があるとしてリコール 16年12月26日～19年1月12日に生産した5万1817台
エアバッグコントローラの制御プログラムが不適切な為、後席ドアを強く閉めた際に、サイドエアバッグ、カーテンエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーが誤作動することがある。その為、最悪の場合、エアバッグ展開時に乗員が負傷する恐れがある。
- FCAジャパン、ジープ「レネゲード」とフィアット「500X」のエアバッグに不具合があるとしてリコール 18年10月25日～19年5月30日に輸入した1786台
エアバッグコントロールモジュールのプログラムが不適切な為、イベントデータレコーダー等のエアバッグ情報の続出しを行うと、エアバッグコントロールモジュールの制御プログラムが意図せず書き換えられてしまうことがある。その為、エアバッグ等の乗員保護装置が適正に作動しない恐れがある。
- ポルシェジャパン、「パナメーラ」等10車種のエアコンプロアコントロールユニットに不具合があるとしてリコール 13年10月29日～16年7月22日に輸入した3431台
エアコンプロアコントロールユニットにおいて、ハウジング形状が不適切な為、防水性が不十分なものがある。その為、ユニット内部に水分が侵入すると内部の電気配線が短絡し基板が焼損して、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- BMWジャパン、1シリーズの「116i」「120i」の燃料タンクに不具合があるとしてリコール 11年6月29日～14年2月25日に生産した2万3746台
燃料タンクの溶接方法が不適切な為、タンク上部に取り付けられたカバープレートが正しく溶接されていないものがある。その為、走行振動等により溶接部に亀裂が生じ、そのままの状態で使用を続けると、亀裂が進展し、亀裂部位から燃料が漏れる恐れがある。
- ホンダ、「N-BOXスラッシュ」の電動パーキングブレーキに不具合があるとしてリコール 14年12月8日～18年12月14日に生産した4万3419台
電動パーキングブレーキアクチュエータ内部ギヤ潤滑用のグリス塗布量およびグリス溜まり部容積の設定が不適切であったことが判明。上り坂での走行や停車を繰り返すと、溜まり部に溜まったグリスのオイル成分がモータ内部に侵入し、モータ内の摩耗粉と混ざり、導電性のある異物が生成されることがある。その為、そのままの状態で使用すると、異物がモーターミナルに付着し、モータ回路がショート。警告灯が点灯するとともに駐車ブレーキが作動しなくなる、または、解除できなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、「シエンタ」ハイブリッド車のエンジンに不具合があるとしてリコール 15年5月7日～18年9月3日に生産した13万7016台
エンジンルーム後部に取付けているカウルルーバーの防水構造が不適切な為、集中豪雨など多量の雨水がかかった場合、水がエンジン上部に滴下して、インジェクタ取付け部から燃焼室に侵入することがある。その為、コンロッドが変形して異音が発生し、最悪の場合、エンジンが破損する恐れがある。
- 日野自動車、「デュトロ」・トヨタOEM「ダイナ200」等計7車種のリヤアクスルハウジングに不具合があるとしてリコール 17年4月28日～19年3月11日に生産した2910台
リヤアクスルハウジングの溶接工程での作業が不適切な為、ハウジング端部のフランジは傾いた状態で溶接されているものがある。その為、回転中心がずれることで、リヤアクスルシャフトやベアリングが損傷し、走行できなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、「アクア」「カローラアクシオ」「カローラフィールダー」「シエンタ」「ヴィッツ」「ジャパントクシー」のハイブリッドシステム停止により走行不能となる恐れがあるとしてリコール
不具合の要因は、電圧変換装置(DC-DCコンバータ)制御基板の半田付けが不十分なものがあったこと。使用過程における冷熱の繰り返しで半田が剥離して、補機バッテリーへの充電ができなくなることで警告灯が点灯し、最悪の場合、ハイブリッドシステムが停止して走行不能となる恐れがある。
18年2月6日～11月15日に生産した1万9618台
- アウディジャパン、「A3セダン」「A3スポーツバック(1.4)」のバックランプに不具合があるとしてリコール 16年10月29日～18年5月30日に輸入した3054台
オンボードサブライコントロールユニットのプログラムが不適切な為、エンジン始動直後にギアをバックにシフトした場合、数秒の間、バックランプが点灯しない。その為、保安基準第40条(後退灯の基準)に適合しない。
- アウディジャパン、「A4 1.4 TFSI」の燃料パイプに不具合があるとしてリコール 16年10月29日～19年5月10日に輸入した1073台
燃料パイプの取付けボルトの取付作業が不適切な為、締め付けトルクが不足しているものがあったことが要因。その為、走行振動等によりボルトが緩み、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。
- 日産自動車、「セレナ」「キューブ」「NV200バネット」・スズキOEM「ランディ」・三菱OEM「デリカバン」「デリカD:3」の電源分配器に不具合で車両火災に至る恐れがあるとしてリコール
電源分配器の基板に不要な半田が付着した状態で防湿材がコーティングされたものがあり、使用過程でコーティングに亀裂が発生することがある。その為、高温環境下で電極間の微細な導通が発生して電極成分が移動し、短絡回路が形成されると、短絡電流の発熱によって、最悪の場合、車両火災に至る恐れがある。 08年11月6日～18年9月3日に生産した49万1345台
- マツダ、「CX-5」「アテンザ」のエンジン制御コンピュータ(ECU)に不具合があるとしてリコール 18年2月1日～19年5月23日に生産した9000台
ECUの気筒休止制御プログラムが不適切な為、気筒休止から復帰する際、バルブクリアランス調整機構が誤作動することがある。その為、ロッカアームが脱落して周辺部品と干渉し、エンジン失火による出力不足が発生して、最悪の場合、エンジンが停止する恐れがある。
- マツダ、「ロードスター」(ND型)のアンダーカバーに不具合があるとしてリコール 15年5月26日～同年7月6日に生産した1231台
アンダーカバーにおいて、ブラケットとに接合治具の管理が不適切な為、接合強度が不足しているものがある。その為、走行中の大きな振動や融雪剤による腐食で接合部が剥がれて異音が発生し、最悪の場合、ブラケットが脱落して他の交通の妨げとなる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、「Cクラスクーペ」等計13車種の前席バックレスト機構に不具合があるとしてリコール 15年10月19日～19年3月22日に輸入した4607台
運転席及び助手席のバックレストのロック機構において、構成部品の寸法が不適切な為、ロック機構が正常に作動せず、バックレストが確実に固定されないことがある。その為、衝突等によりバックレストに強い力が加わった際、バックレストが前方に倒れ、最悪の場合、乗員が負傷する恐れがある。
- マツダE&T、スズキ「エブリィ」・日産「NV100クリッパーリオ」の車いす乗降用スロープ装着車について、制動装置(後輪ブレーキ配管)に不具合があるとしてリコール
車いす乗降用スロープ装着車において、後輪ブレーキ配管の配索設計が不適切な為、当該配管が誤って配索されている。その為、旋回時などに車両が横滑りした際に、横滑り防止装置が正しく機能せず、最悪の場合、走行安定性を損なう恐れがある。